

## ～下記の研究を行います～

# 『経口第3世代セファロスポリン系抗菌薬処方量に関する検討～クリニカルパス見直しによる影響～』

【研究責任者】川上 智久

### 【研究の目的】

薬剤耐性菌が世界的に増加しており、抗菌薬の不適正使用が背景にあるとされている。AMR（薬剤耐性）対策アクションプランでは2020年度の成果指標として2013年比で経口セファロスポリン系抗菌薬の使用量50%減を目標としている。大阪医療センターでは、診療科によって術後感染予防薬として経口第3世代セファロスポリン系抗菌薬であるセフカペンピボキシルが処方されていた。2021年1月に整形外科・眼科のクリニカルパスが見直され、クリニカルパスからセフカペンピボキシルが削除となった。今回、院内におけるセフカペンピボキシルの使用量に変化があったかを調査する。

【研究の期間】研究許可日～2022年9月30日

### 【研究の方法】

●対象となる患者さん

2020年4月30日～2022年3月31日にセフカペンピボキシルの処方歴がある入院患者さん

●研究に用いる試料・情報の種類

試料：

なし

情報：セフカペンピボキシルの処方歴等

### 【研究の資金源】

なし

### 【利益相反】

臨床研究における利益相反（COI（シ-オーアイ）：Conflict of Interest）とは、「主に経済的な利害関係によって公正かつ適正な判断が歪められてしまうこと、または、歪められているのではないかと疑われかねない事態」のことを指します。具体的には、製薬企業や医療機器メーカーから研究者へ提供される謝金や研究費、株式、サービス、知的所有権等がこれにあたります。

なお、本研究の利益相反については、当院の利益相反審査委員会で審査され適切に管理されています。

◎本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

- ◎ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
- ◎情報等が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

国立病院機構大阪医療センター  
〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2丁目1-14  
TEL (06) 6942-1331 (代)  
研究責任者 薬剤部 (主任薬剤師) 川上 智久